

令和3年度 学校経営方針

京都市立静原小学校

学校教育目標

よりよく生きるために、心豊かに積極的に行動できる子どもの育成

～「チーム静原」(学校・家庭・地域)で育む行動力と人間性～

【育成を目指す資質・能力】 「判断力」・「対話力」・「問題対応能力」

【目指す子ども像】

- ◎「し」:しっかりと聞いたり話したりできる子ども(思考力・判断力・表現力等)
- ◎「ず」:ずっと笑顔で健康的な子ども(健やかな体)
- ◎「は」:はきはきとしたあいさつができる子ども(豊かな心)
- ◎「ら」:らんらんとした目で学ぶ子ども(確かな学力)

【目指す学校像】

- ◎明日も笑顔で来たくなるような安心感のある学校
- ◎学校生活すべてにおいて、子どもが学び合う学校
- ◎家庭・地域と連携・協働することで一体感のある学校

【目指す教職員像】

- ◎子どもに寄り添いながら、温かい目でしっかりと見取ることができる教職員
- ◎子どもと共に歩み、自らも学び育とうとする教職員
- ◎コンプライアンスを意識し、保護者・地域から信頼される教職員

【目指す子ども像について(「し」「ず」「は」「ら」を意識しながら学校生活を送れるように)】

◎「し」…しっかりと聞いたり話したりできる子ども(思考力・判断力・表現力等)

- ・ポスター発表や思考ツールの活用などを取り入れ、探究的な学習を各教科で設定し、言語能力、情報活用能力、問題対応能力などの育成に資する学びの質を重視した授業改善を図る。
- ・「めあて」から「まとめ」「ふりかえり」までの基本的な学習過程を単に実践するだけでなく、発問の工夫やゆさぶり、話し合い活動など子どもの思考を意識しながら「主体的・対話的で深い学び」を目指す。

◎「ず」…ずっと笑顔で健康的な子ども(健やかな体)

- ・命の大切さや健康的に過ごすことの意義を認識し、自分も友達も笑顔で過ごせるようにする。
- ・規則正しい生活習慣や危険予知などを意識し、子ども自身が安全に学校生活を送れるようにする。

◎「は」…はきはきとしたあいさつができる子ども(豊かな心)

- ・互いのよさを認め合い、協力する活動を意識的に取り入れることで自己肯定感や自己有用感を高め、子ども同士のつながりを支援する。
- ・自分からあいさつや「さん」づけなどを徹底し、互いに尊重し合いながら望ましい人間関係を築く。

◎「ら」…らんらんとした目で学ぶ子ども(自ら学ぶ力)

- ・授業での約束や学び方を身につけ、教材や指導計画を意識しながら各教科・領域で必要とされる基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。
- ・タブレット端末と紙ドリルを効果的に併用するなど、日々の授業と家庭学習とを連動させることを通して、自学自習の習慣化を図る。

【目指す学校像について】

◎「明日も笑顔で来なくなるような安心感のある学校」

- ・本市の教育理念である「子ども一人一人を徹底的に大切にする」を教職員全員が意識できるように、静原タイムや個人掃除などの取組にも積極的に参加し、喜びや感動、気づきなどを共有する。
- ・「子どもファースト」の理念のもと、学校生活すべてにおいて子どもたちが安心して活動ができるように、子どもの声に積極的に耳を傾けながらさまざまな面から支援する。

◎「学校生活すべてにおいて、子どもが学び合う学校」

- ・普段の学習活動だけでなく、縦割り活動や全員遊びなど特別活動でも学ぶことがあることを実感できるように指導することで、子どもの学習意欲の喚起につなげる。
- ・生き方探究パスポートの活用やキャリアデザインにつながるような活動を積極的に取り入れ、子どもに語らせたり語り合わせたりすることで、育てたい資質・能力の1つである「対話力」を高める。

◎「家庭・地域と連携・協働することで一体感のある学校」

- ・各家庭と教職員とが子どものことを中心に連絡を密に行い、家庭と学校とがしっかりと連携を取ることで子どもたちを大切にするという姿勢を意識する。
- ・静原地域ならではの体験学習に積極的に取り組むことで、保護者・地域の方々とのつながりを深め、静原小学校の子どもたちをチームとして育てていけるようにする。

【目指す教職員像について】

- ◎「子どもに寄り添いながら、温かい目でしっかりと子どもを見取ることができる教職員」
 - ・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を組織的にかつスピーディーに実践できるように、「子どもファースト」を意識しながら何か子どもの様子の変化等があればその都度集まるなど情報を共有することで、教職員間での連携を確実にする。
 - ・子どもの表情や様子、成長の変化に日頃から敏感になり、教職員から寄り添う働きかけを意識する。
- ◎「子どもと共に歩み、自らも学び育とうとする教職員」
 - ・子どもの学びや学習経験、体験について知ること、キャリア形成サイクルを実践していく。
 - ・「判断力」「対話力」の意義や必要性について考え、市原野小学校との統合後のことだけでなく、社会に出てからも大切な力だと認識しながら指導する。
- ◎「コンプライアンスを意識し、保護者・地域から信頼される教職員」
 - ・定期的に教職員ミーティングをするなどしてコンプライアンスを徹底し、教育公務員としての倫理観を向上させていく。
 - ・資質や指導力の向上を目指すとともに、「チーム静原」として学校経営を担う一員であることを教職員自身が意識する。

【今年度の重点指導事項】

- ◎「判断力」「対話力」の育成に基づく「主体的・対話的で深い学び」の充実
 - ・子どもがやりたいこと、やるべきことを自覚するとともに、問題解決など自分自身の力で最後までやり遂げられるような授業づくりや単元構成を考える。
 - ・子ども自身が主体的に学べるように、タブレット端末の活用や単元の流れ・授業のステップを提示するなどして学習の見通しがもてるような工夫をする。
 - ・話し方や聞き方については学年に応じた形で系統だてながら取り組み、お互いの思いや考えなどを高め合うための話し合い活動を充実させる。
- ◎自分づくりを目指すキャリアデザインと確かな評価
 - ・個の見取りを核としたキャリア形成サイクルを引き続き実践し、キャリアの視点を大切にすることで、子どもと教職員との信頼関係を深める。
 - ・がんばってよかったという達成感につなげるために、子ども自身の思いで主体的に進めていく活動を尊重し、その様子や状況をしっかりと見取る。
 - ・生き方探究パスポートやキャリアデザインを活用し、子どもが自分らしく活躍するために必要な力を、身につけられるようにする。
- ◎今日も来てよかった、明日もまた学校に行きたいと思える学級・学校の実現
 - ・本市の教育理念である「子ども一人一人を徹底的に大切にする」を教職員全員が意識し、子どもの見取りや支援を確実に実践する。
 - ・「判断力」「対話力」を高めるための具体的な取組を進め、学習面や対人関係などのさまざまな問題に対しても、子どもが学校への安心感と安全性を自覚できるように丁寧に対応する。
 - ・地域や保護者、PTAからも本校の学校教育活動について幅広く意見をいただき、互いに協働しながら「チーム静原」として学校づくりを進めていく。